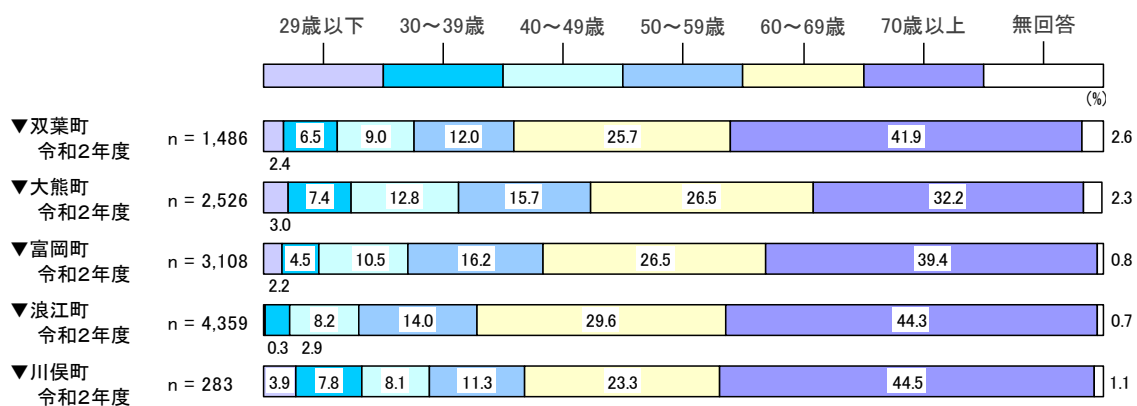


令和2年度 原子力被災自治体における 住民意向調査 調査結果（概要）

調査の概要

1. 調査目的：福島県内の原子力災害による避難住民の早期帰還・定住に向けた環境整備、長期避難者の生活拠点の具体化等のための基礎情報収集を目的に住民意向調査を実施
2. 調査主体：復興庁、福島県、各町が共同で実施
3. 実施町村：双葉町、大熊町、富岡町、浪江町、川俣町の5町
4. 実施時期：令和2年8月19日～令和2年11月16日
5. 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収）調査対象は各世帯の代表者
6. 主な調査項目：現在の居住状況、帰還に関する意向、帰還の判断に必要な情報など
7. 回答者の属性（年齢）



調査概要

●調査対象となった各町の調査実施状況は以下のとおり。

	対象町	対象地域	記名・ 無記名	対象 世帯数	回答 世帯数	有効 回収率	調査実施期間
1	双葉町	全域	記名	3,018 (3,057)	1,486 (1,402)	49.2% (45.9%)	令和2年 8月19日～9月2日
2	大熊町	全域	記名	5,135 (5,199)	2,526 (2,170)	49.2% (41.7%)	令和2年 9月28日～10月12日
3	富岡町	全域	無記名	6,450 (6,612)	3,108 (2,932)	48.2% (44.3%)	令和2年 8月31日～9月14日
4	浪江町	全域	記名	7,434 (7,471)	4,359 (3,546)	58.6% (47.5%)	令和2年 9月14日～9月28日
5	川俣町	山木屋地区	記名	515 (518)	283 (249)	55.0% (48.1%)	令和2年 11月2日～11月16日
				22,552	11,762	52.2%	

※（ ）内は令和元年度

●調査対象の考え方 ： 上記「対象地域」の世帯の代表者
(分散避難している場合はそれぞれの代表者)

●調査結果の見方

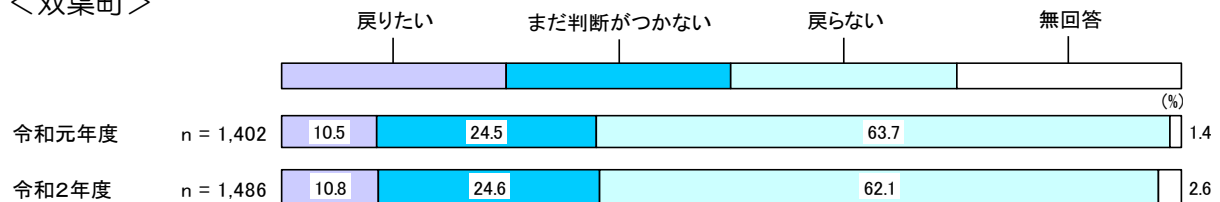
- ・「n」とは、質問に対する回答者数であり、100%が何世帯の回答に相当するかを示すものである。
- ・回答の構成比は百分率をあらわし、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略している場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

帰還意向

○大熊町、富岡町、浪江町、川俣町では、「戻っている」と回答した方の割合は令和元年度調査と比べて若干増加している。

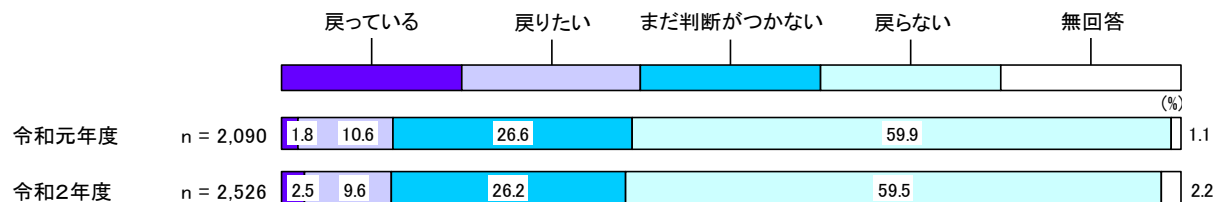
○令和2年度の調査結果によると、双葉町、大熊町、富岡町、浪江町では「戻りたい」と回答した方の割合は1割程度となっている。

<双葉町>



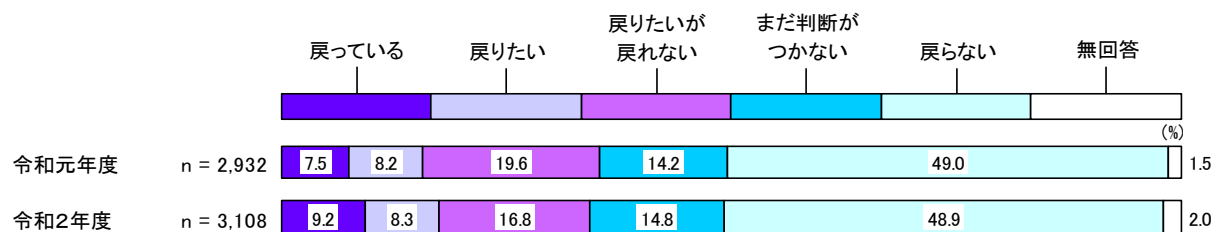
<大熊町>

※平成31年4月10日に避難指示の一部解除



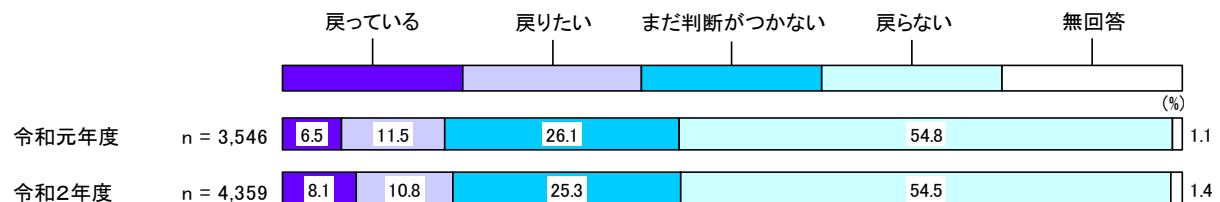
<富岡町>

※平成29年4月1日に避難指示の一部解除



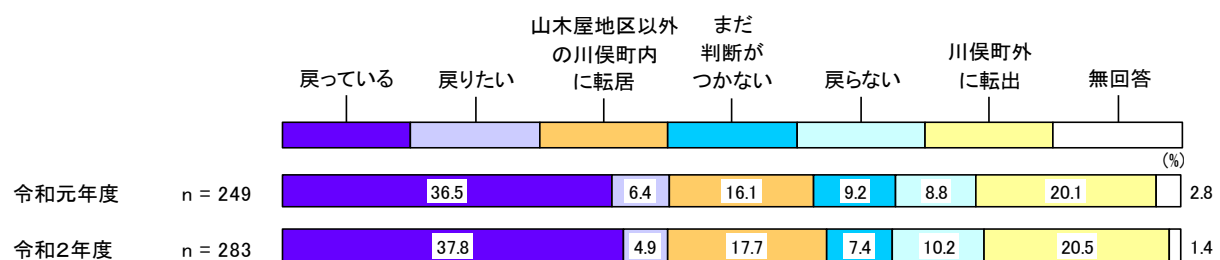
<浪江町>

※平成29年3月31日に避難指示の一部解除



<川俣町>

※平成29年3月31日に避難指示解除



帰還を決めた理由

○帰還意向において「戻っている」と回答した方が帰還を決めた理由として、「気持ちが安らぐこと」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
大熊町 令和2年度 n=62	役場機能が再開したこと 43.5%	気持ちが安らぐこと 37.1%	自宅や公営住宅等が 整備されたこと 32.3%	放射線量が低減された こと 25.8%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 22.6%
富岡町 令和2年度 n=286	気持ちが安らぐこと 52.4%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 38.8%	放射線量が低減された こと 35.0%	役場機能が再開したこと 35.0%	商業施設が再開したこと 32.2%
浪江町 令和2年度 n=352	浪江での生活は気持ちが 安らぐから 68.8%	放射線量が低減される など、不安が少しずつ 払拭されてきたから 27.8%	勤務先が近いから 16.5%	見守り隊のパトロールなど により安心して生活できると 判断したから 13.6%	公営住宅・居住環境が 整備されたから 11.1%
川俣町 令和2年度 n=107	気持ちが安らぐこと 63.6%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 31.8%	放射線量が低減された こと 29.0%	友人・知人等が町内に 居住していること 24.3%	商業施設が再開したこと 11.2%

■大熊町、浪江町、川俣町は、今年度から聴取した設問である

■富岡町は、「放射線量が低減されたこと」「役場機能が再開したこと」の2項目が同率であるが、グラフの表記上3～4位に分けて表示している

<（参考）前回調査結果>

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
富岡町 令和元年度 n=220	気持ちが安らぐこと 54.5%	役場機能が再開したこと 38.6%	医療機関が開院したこと 38.2%	商業施設が再開したこと 36.4%	水道水等、生活用水の 安全性が確認されたこと 35.0%

帰還を判断するために必要な条件

○帰還意向において「まだ判断がつかない」と回答した方が、帰還を判断するために必要な条件として、「医療・介護等の再開」が上位である町が多く、その他「商業施設の再開」「住民の帰還状況」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和2年度 n=365	医療・介護福祉施設の再開や新設 41.9%	商業施設の再開や新設 29.3%	住宅の修繕や建て替え、住宅確保の支援 28.8%	上下水道等ライフラインの整備状況に関する情報 20.3%	被ばく線量対策（除染含む） 15.9%
大熊町 令和2年度 n=661	病院、道路、公共交通などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途 72.9%	帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報 43.1%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 41.6%	どの程度の住民が戻るかの状況 40.2%	住宅確保への支援に関する情報 37.8%
富岡町 令和2年度 n=459	医療機関（診療科）の拡充 60.6%	商業施設の充実 44.9%	介護・福祉施設の充実 37.7%	どの程度の住民が戻るかの状況 31.8%	防犯・防火対策の強化 26.8%
浪江町 令和2年度 n=1,103	医療・介護の復旧時期の目途 56.8%	どの程度の住民が戻るかの状況 37.9%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 35.5%	原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況） 28.0%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 26.6%
川俣町 令和2年度 n=21	介護・福祉施設の充実 38.1%	商業施設の充実 38.1%	どの程度の住民が戻るかの状況 38.1%	働く場の確保の見通し 33.3%	公共交通機関の充実 28.6%

■川俣町は、「介護・福祉施設の充実」「商業施設の充実」「どの程度の住民が戻るかの状況」の3項目が同率であるが、グラフの表記上1～3位に分けて表示している

<（参考）前回調査結果>

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和元年度 n=343	医療・介護福祉施設の再開や新設 40.5%	住宅の修繕や建て替え、住宅確保の支援 35.6%	商業施設の再開や新設 27.7%	除染対策（被ばく低減対策） 16.9%	どの程度の住民が戻るかの状況 12.2%
大熊町 令和元年度 n=556	道路、鉄道、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途 63.3%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 46.0%	住宅確保への支援に関する情報 42.4%	どの程度の住民が戻るかの状況 41.4%	帰還困難区域の避難指示解除となる時期の目安に関する情報 38.8%
富岡町 令和元年度 n=417	医療機関（診療科）の拡充 61.4%	商業施設の充実 46.3%	どの程度の住民が戻るかの状況 38.4%	介護・福祉施設の充実 36.7%	放射線量の低下の見通し、除染成果の状況 34.3%
浪江町 令和元年度 n=925	医療・介護の復旧時期の目途 55.8%	どの程度の住民が戻るかの状況 39.0%	商業やサービス業などの施設の復旧時期の目途 36.4%	原子力発電所の安全性に関する情報（事故収束や廃炉の状況） 30.7%	放射線量の低下の目途、除染成果の状況 28.5%
川俣町 令和元年度 n=23	医療機関の充実 43.5%	放射線量の低下の見通し、除染成果の状況 43.5%	公共交通機関の充実 39.1%	介護・福祉施設の充実 34.8%	どの程度の住民が戻るかの状況 26.1%

■川俣町は、「医療機関の充実」「放射線量の低下の見通し、除染成果の状況」の2項目が同率であるが、グラフの表記上1～2位に分けて表示している

帰還しないと決めている理由

○帰還意向において「戻らない」と回答した方が、帰還しないと決めている理由として、「すでに生活基盤ができているから」「医療環境に不安があるから」などが上位にあげられている。

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和2年度 n=923	避難先で自宅を購入 または建築し、将来も継続 的に居住する予定だから 56.8%	医療環境に不安が あるから 51.1%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 39.8%	生活に必要な商業施設 などが元に戻りそうに ないから 37.6%	水道水などの生活用水の 安全性に不安があるから 33.9%
大熊町 令和2年度 n=1,504	すでに生活基盤が できているから 59.1%	医療環境に不安が あるから 43.5%	避難先の方が 生活利便性が高いから 42.0%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 39.0%	家が汚損・劣化し、住める 状況ではないから 30.5%
富岡町 令和2年度 n=1,521	すでに生活基盤が できているから 60.1%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 38.7%	医療環境に不安が あるから 32.5%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 25.2%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 24.8%
浪江町 令和2年度 n=2,375	すでに生活基盤が できているから 53.9%	医療環境に不安があるから 42.3%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 40.1%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 28.7%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 28.3%
川俣町 令和2年度 n=29	医療環境に不安があるから 58.6%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 55.2%	すでに生活基盤が できているから 51.7%	介護・福祉サービスに 不安があるから 44.8%	山木屋地区外への 移動交通が不便だから 37.9%

<（参考）前回調査結果>

※複数回答可

	1位	2位	3位	4位	5位
双葉町 令和元年度 n=893	避難先で自宅を購入 または建築し、将来も継続 的に居住する予定だから 55.9%	医療環境に不安が あるから 49.3%	水道水などの生活用水の 安全性に不安があるから 39.3%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 37.7%	生活に必要な商業施設 などが元に戻りそうに ないから 36.7%
大熊町 令和元年度 n=1,252	すでに生活基盤が できているから 41.5%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 20.0%	家が汚損・劣化し、住める 状況ではないから 18.7%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 16.4%	医療環境に不安が あるから 15.1%
富岡町 令和元年度 n=1,436	すでに生活基盤が できているから 61.1%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 39.7%	医療環境に不安があるから 33.1%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 28.1%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 25.6%
浪江町 令和元年度 n=1,944	すでに生活基盤が できているから 49.2%	医療環境に不安があるから 44.0%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 41.4%	原子力発電所の安全性に 不安があるから 31.9%	生活に必要な商業施設 などが不足しているから 30.6%
川俣町 令和元年度 n=22	医療環境に不安があるから 40.9%	避難先の方が、 生活利便性が高いから 36.4%	放射線量が低下せず 不安だから 27.3%	すでに生活基盤が できているから 27.3%	原子力発電所の安全性に 不安があるから、等 22.7%

■川俣町は、「放射線量が低下せず、不安だから」「すでに生活基盤ができているから」の2項目が同率であるが、グラフの表記上3～4位に分けて表示している
また、「原子力発電所の安全性に不安があるから」「家が汚損・劣化し、住める状況ではないから」「山木屋地区外への移動交通が不便だから」「介護・福祉サービスに不安があるから」「高齢者・要介護者のいる世帯なので生活が不安だから」の5項目が同率で5位となっている